

ダッダッ。

善音機で聞いた獨逸の混樂と同じ様なシンメリがあると直治は言つた。

辻潤はぐたぐたになつて寝轉んだ。

井家がビールの栓を齒で嚙んで抜く。

虎雄の原稿の悪口が出る。

小便を階下までヒリに行く。

鶴が居た。

新吉は其の晩牛込の浅野の下宿を訪ねた。

神經質な彼が微塵の不安もなしに、新吉も又安眠出來たのは幸福だつた。

野田の貸間に行くとい林が遊びに來た。

懐ひ出多き貸間の若い主婦が「もう好くなられたんですか」となつかしげに言つた。

馬道の黒瀬へ行つて、晩お半ちやん達と馬肉屋で、馬の紅門も食つた。

體があたゝまつてピン／＼跳ね出すとクロチャンが言ふ。